



No.1

北海道紋別市

I. 基本情報

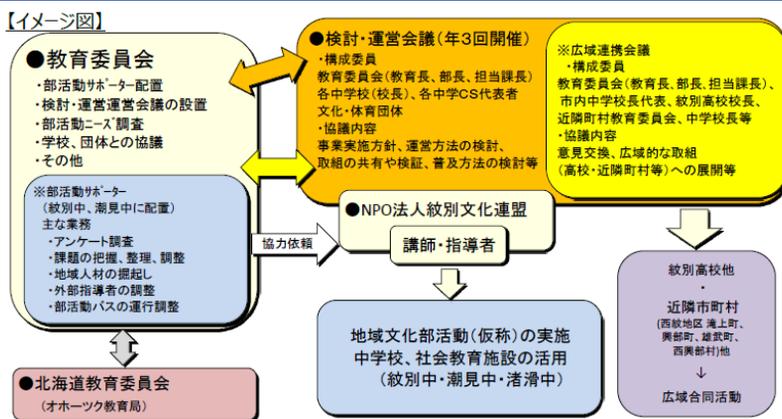
主な活動種別

(運営主体) 紋別市教育委員会

茶道、琴、書道、美術

(事業目標) 部活動は、協調性や社会性を育み、体力や集中力を高めるほか、生涯の友人を得たりと、子ども達が成長していく過程で非常に重要な機会であり、その機会を提供するため、三つの課題（持続的な活動、教員の働き方改革、広域的な連携）について、研究を実施する。

団体・組織等の連携



II. 活動概要

【北海道の取組】

- 校長会、中体連、PTA、教育長会、スポーツ文化団体、再委託先教育委員会、学識経験者（大学教授）等を構成員とした「第1回地域部活動推進協議会」を7月7日に開催し、事業の取組状況、地域移行に向けた各団体の課題や今後の方向性について意見交換を行った。第2回は2月22日に開催した。
- 11月20日に「地域部活動推進フォーラム」と題し、YouTubeライブ配信及びアーカイブ配信を行うことで、拠点校の取組を広く道民に周知した。
- 平日の部活動と休日の活動の指導の一貫性の確保が課題である。
- コンクール等の主催は基本的に学校関係者が中心なので、今後主催団体をどうしていくのが課題である。
- 単独の市町村だけでは運営できないため、広域連携をする必要があるが、移動手段等の確保が新たな課題である。
- 文化系の活動では、一人一人の興味ややりがいを引き出すような種目がある一方で、もっと地域での受け皿を広げる必要性がある。
- 活動を維持するためには、どこまで受益者負担にするのかなど、文化団体等への予算的裏付けが必要である。

【再委託先（紋別市）の取組】

- 実施主体である市教育委員会が任用した部活動サポーター2名（会計年度任用職員）が、地域部活動推進に係る事務のほか文化団体等との協議を行っており、教職員への負担はほぼない状況である。学校には、募集案内の配布・回収、休みの連絡などについて協力依頼している。
- 地域部活動は、週1回程度の開催で学校部活動との併用も可能とし、活動時間は、学校部活動と同様の時間帯としている。
- 各種目に指導者を1名ずつ派遣するよう各文化団体に依頼している。なお、指導者については、後継者の育成も兼ねて他に1名の補助者が同伴している。
- 各校の文化系部活動が吹奏楽部と美術部のみであったため、既存の部活動との調整が不要であった。
- 生徒数、教職員の減少により、部活動の維持が困難。（学校）
- 地域で実施するのであれば、どんどん進めてほしい。（学校）

III. 成果・課題

本事業による成果

- ・地域指導者が学校部活動の一環として文化系活動の場を子どもたちに提供したことは意義あることと評価している。既に、学校の文化系部活動は吹奏楽・美術部のみとなっていたため、茶道・書道・琴・ダンスの活動は教員の働き方改革には直接的な効果は見られないが、生徒の活動の場が広がったことは本事業の成果と捉えている。
- ・部活動の地域移行というテーマに、教育委員会が主体となり地域指導者が運営に関わるという一つの形態が生まれたことは、学校だけに頼る現行の部活動のあり方に問題提起をしたことになった。部活動を支えるファクターに保護者の存在があるが、本市の小さな取組が地域社会での話題になることで部活動の改善が進んでいくことになると考える。

指導、運営上の工夫

- 児童・生徒への指導に関する工夫
 - ・指導に関しては地域指導者に一任。単なる「習い事」ではなく、学校関係者以外との交流を通じて学び合うことや子どもたちの自主性を尊重するクラブ活動の在り方をともに創っていくため、部活動の一環であることを理解していただいた。
- 運営上の工夫
 - ・指導と管理の分業体制構築。運営業務は教育委員会（主に部活動サポーター）が行い、地域人材の活用を支援し、会場準備・整理、関係者への連絡、運営に係る事務、子どもたちの送迎など具体的支援を行った。
 - ・合同部活動の観点から、会場へ生徒送迎を行い、活動時間を決め、学校のきまりである18時完全下校に間に合うよう対応した。

今後に向けた方針・方向性

- ・教職員の勤務実態など地域移行の必要性を地域と共有し、学校と地域が連携し運営上の工夫をするなど、地域の実情を踏まえた最善の方策を考える必要がある。
- ・文化系の講師は、既に職務をリタイアしている人も多く、平日の放課後の指導も可能だが、高齢であることから、後継者の育成も含めた体制を整える必要がある。
- ・令和4年度より文化連盟に業務委託し、引き続き活動を継続するとともに、持続可能な運営体制を構築していくための協議を関係者と進めていく。